

(資料提供)  
平成30年10月4日  
企画課高等教育振興・国際機関連携グループ  
吉田・永江（内線 3612・3635）

## SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ（I P S I） 第7回定例会合の結果について

「I P S I 第7回定例会合」が、平成30年9月30日（日）～10月2日（火）に石川県において開催され、別添のとおり環境省から開催結果が発表されましたので、お知らせします。



国連生物多様性の10年

## SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ

### 第7回定例会合の結果について

平成30年10月4日（木）

<石川県同時発表>

平成30年9月30日（日）～10月2日（火）に石川県金沢市において、「SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）<sup>（注1）</sup>第7回定例会合」が開催されました。この会合は、環境省とIPSI事務局が主催、石川県が共催で、総会では、国内外の参加者約100名を得て、SATOYAMA イニシアティブによる愛知目標への貢献に関する評価や、ポスト2020年目標<sup>（注2）</sup>の検討過程への貢献方法等が話し合われました。併せて、公開フォーラム「SATOYAMA イニシアティブの生物多様性愛知目標及び持続可能な開発目標（SDGs）への貢献」も開催されました。

#### 1. 趣旨

SATOYAMA イニシアティブは、食料生産等の人間活動の影響を受けて形成・維持されている二次的自然環境における生物多様性の保全やその持続可能な利用の促進のため、2010年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において、環境省及び国際連合大学サステナビリティ高等研究所を中心に提唱してきたものです。

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）は、本イニシアティブを促進するために設立された国際パートナーシップで、定期的に全メンバーが参加する定例会合が開催されています。第7回定例会合では、これまでの活動評価と今後の活動の方向性を中心に議論が進められました。

#### 2. 開催主体

主催：環境省、IPSI事務局（国連大学サステナビリティ高等研究所）

共催：石川県

#### 3. 結果概要等

##### 【公開フォーラム】

日時：平成30年9月30日（日）14:30～17:45

場所：金沢ニューグランドホテル4階 金扇（石川県金沢市南町4-1）

結果概要：

- ・「SATOYAMA イニシアティブの生物多様性愛知目標及び持続可能な開発目標（SDGs）への貢献」をテーマに開催され、一般参加者を含め約130名が参加しました。
- ・開催に際して、正田環境省自然環境局長他からの開会挨拶の後、武内和彦氏（国連大学サステナビリティ高等研究所上級客員教授、公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京

大学サステナビリティ学連携研究機構 機構長・特任教授) 他による基調講演が行われました。

- ・パネルセッションでは、IPSI メンバーからの SATOYAMA イニシアティブに基づく活動の事例紹介等が行われた後、SATOYAMA イニシアティブが愛知目標及び持続可能な開発目標 (SDGs) にどのように貢献してきたか、また、愛知目標の目標年である 2020 年以降の活動をどうすべきか等について議論されました。

#### 【総会】(一般非公開)

日時：平成 30 年 10 月 1 日 (月) 9:00~18:00

場所：金沢ニューグランドホテル 4 階 金扇 (石川県金沢市南町 4-1)

結果概要：

- ・IPSI 参加団体の約 100 名が参加しました。
- ・総会開会に際し、とかしき環境副大臣、谷本石川県知事他から挨拶がありました。
- ・総会議長には、武内和彦氏が選出され、IPSI 第 6 回定例会合以降の進捗報告、IPSI 行動計画に関する報告の後、愛知目標への貢献の評価方法、これまでの課題、2020 年以降の方向性について 5 分科会に分かれて議論しました。
- ・この議論を踏まえて、SATOYAMA イニシアティブの愛知目標達成への貢献を通じて、SDGs、自然資源の持続可能な利用、食料や水の安全、気候変動、生態系を活用した防災・減災 (Eco-DRR)、生物文化多様性保全に有効であることなどを確認する「石川声明」に合意しました。
- ・第 8 回定例会合を 2019 年に熊本県で開催することを決定しました。

#### 【現地視察】

日時：平成 30 年 10 月 2 日 (火) 終日

場所：石川県能登地方

結果概要：

- ・石川県及び関係市町のご協力により、3 コースに分かれて IPSI 参加団体の約 80 名が現地視察を行いました。
- ・コース 1 では羽咋市、穴水町、七尾市において、里山や里海の資源を活かした経済振興に関する取組、コース 2 では七尾市、能登町、輪島市において、里山・農村文化の保全のための教育活動に関する取組、コース 3 では穴水町、輪島市において、伝統知に関する取組の視察を行いました。

※ 本会合の結果概要・発表資料等は、近日中に IPSI 事務局 web サイトに掲載される予定です。

<http://satoyama-initiative.org/ja/>

#### (注 1) SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ

(International Partnership for the Satoyama Initiative: IPSI)

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップは、SATOYAMA イニシアティブの活動を促進するため、2010 年に開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) の期間に、国・地方政府機関、研究機関、国際機関、NGO、民間企業等、多様な主体の参加を得て発足した国際パ

ートナーシップです。現在、20 か国の 21 政府機関、14 国際機関を含む合計 240 団体が参加しています。

IPSI 事務局 web サイト <http://satoyama-initiative.org/ja/>

(注2) ポスト 2020 年目標

COP15 (2020 年・中国) において採択される予定である、2020 年以降の新たな生物多様性の世界目標。

添付資料

・石川声明 2018 (仮訳)

環境省自然環境局	自然環境計画課
生物多様性戦略推進室	
代表	03 - 5521 - 3351
直通	03 - 5521 - 8275
室長	中澤 圭一 (内線 6480)
室長補佐	中嶋 健次 (内線 6484)

## SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第7回定例会合 石川声明 2018(仮訳)

9月29日から10月2日に、日本国石川県金沢市で開催された SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第7回定例会合(IPSI-7)の参加者である私たちは、

1. ここ石川県において、能登半島の海女漁に代表される多様な主体による生業の創出、行政と大学が連携した人材育成、棚田・農業用の水源となるため池等による生態系の継続的な維持など、人と自然との共生する社会に向けた取組が実践されてきたことを歓迎します。
2. 今般、日本国環境省及び国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)にある IPSI 事務局の主催並びに石川県の共催により、IPSI-7 が開催されたことに謝意を表します。
3. 社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ(SEPLS)の認識の向上、支援及び再活性化・再構築のために、SATOYAMA イニシアティブが提唱されたことを想起します。
4. SATOYAMA イニシアティブの下で同定された活動を遂行するために、2010年10月に、愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(CBD COP10)の機会に、SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)を発足させ、生物多様性愛知目標の達成に貢献するために取り組んできたことを確認します。
5. リオ+20と生物多様性に関する石川宣言2011及び生物文化多様性に関する石川宣言2016を想起します。
6. SEPLSの保全並びに持続可能な利用に向けたランドスケープ及びシースケープ・アプローチの事例・経験として共有された IPSI メンバーの活動の進展、また、IPSI-7 において確認された、「自然共生社会の実現」という SATOYAMA イニシアティブのビジョン及び生物多様性のための戦略計画2011-2020 並びに生物多様性愛知目標の達成への IPSI メンバーの貢献を歓迎します。
7. 生物多様性愛知目標に加え、とりわけ、ランドスケープ及びシースケープ・アプローチの促進、また、先住民及び地域コミュニティのエンパワーメント、食糧及び水の安全保障、気候変動の緩和及び適応、生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)及び生物文化多様性の保全等を通じた自然資源の持続可能な利用の推進を通じて、IPSI-7 参加者の持続可能な開発目標(SDGs)の達成への貢献を認識します。
8. 2018年11月17日から29日に、エジプト・シャルムエルシェイクで開催される生物多様性条約第14回締約国会議(CBD COP14)等の機会において、IPSI-7の成果を普及することを約束します。
9. 更に、2020年に、中国で開催される生物多様性条約第15回締約国会議(CBD COP15)において採択される予定のポスト2020年世界生物多様性枠組において、SEPLSの重要性を推進することを約束します。